

国語科学習指導計画

読みの交流を通して、読み深める小説の授業

～ 江國香織の二つの作品をめぐる ～

広島県立呉昭和高等学校 久保 久美子

1 学 年 第1学年「国語総合」

2 単元の目標

- (1) 読み手の想像力をかき立てる作品を読むことを通して、物語の世界を楽しむ。(関心・意欲・態度)
- (2) 学習者相互の読みを交流したり、同じ作家の二つの作品を読み比べることによって、自らの読みを深める。(読む能力)
- (3) 江國香織の表現の特徴について理解する。(知識・理解)

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
物語の世界を楽しもうとしている。	文章表現に即して人物像や人物の心情を読み味わっている。 他者のものの見方、感じ方に触れて、自らの読みを深めている。 二つの作品を読み比べることによって自らの読みを深めている。	常用漢字の読みになれ、文脈に応じた適切な使い方を理解している。 独特の擬声語・擬態語など江國の表現の特徴を理解している。

4 指導と評価の計画(9時間)

時間	目標	学習活動	評価規準	評価方法
1	『草之丞の話』を読んで、登場人物の人物像を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 本文を範読に従って通読し、物語全体の流れを理解する。 時間の流れに着目して、段落分けをする。 登場人物の人物像を文章表現に即して豊かに描く。 	<p>「知識・理解」</p> <p>「読む能力」</p>	<p>定期試験</p> <p>ワークシートの記述の点検</p>
2	「草之丞」との出会いによって、「ぼく」はどのように変わったのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 「ぼく」の「草之丞」に対する気持ちの変化を、七月、十月、十二月の場面ごとにまとめる。 この家族のあり方について、「草之丞」が現れる前と現れてからとについてまとめる。 	<p>「読む能力」</p> <p>「読む能力」</p>	<p>ワークシートの記述の点検</p> <p>ワークシートの記述の点検</p>
3	「草之丞」の出現が「ぼく」に何をもたらしたかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートを基にグループごとに話し合い、メモ・感想をワークシートに記入する。 「草之丞」が現れ、消えることによって、「ぼく」の心にどのような変化があったかをグループごとに話し合い、その結果をワークシートに記入する。 	<p>「読む能力」</p>	<p>ワークシートの記述の点検</p>
4	『デューク』を読んで、登場人物の人物像を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 本文を範読に従って通読し、物語全体の流れを理解する。 主要な事件をもとに、大きく場面分けする。 登場人物の人物像を文章表現に即して捉える。 	<p>「知識・理解」</p> <p>「読む能力」</p>	<p>定期試験</p> <p>ワークシートの記述の点検</p>

5	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」とデュークの関係について考える。 ・変身を主題とする物語のおもしろさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」にとってデュークはどのような存在であったのかを考える。 ・少年がデュークの化身であることが伝わる表現の工夫を、正確に読み取る。 	<p>「読む能力」</p> <p>「読む能力」</p>	<p>ワークシートの記述の点検</p> <p>ワークシートの記述の点検</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」の悲しみが癒されていく過程をたどる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの出来事がどのように「私」の気持ちに作用しているかを文章表現に即して、丁寧に読み取る。 ・少年＝デュークだとわかって読むと、少年の三つの言葉はどのように解釈できるか考える。 	<p>「読む能力」</p> <p>「読む能力」</p>	<p>ワークシートの記述の点検</p> <p>ワークシートの記述の点検</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・少年（デューク）との出会いと別れが、「私」に何をもたらしたかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを基にグループごとに話し合い、メモ・感想をワークシートに記入する。 ・少年（デューク）が現れ、去ったことによって、「私」の心にどのような変化があったかを、グループごとに話し合い、ワークシートに記入する。 	<p>「読む能力」</p>	<p>ワークシートの記述の点検</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの作品の最大の謎を読み解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3時、第7時の各グループのまとめをプリントしたものを読む。 ・「『草之丞』はなぜ『ぼく』の前に姿を現し、去っていったのか」「なぜデュークは少年に姿を変えて、再び『私』のもとに戻り、再び去っていったのか」という謎のどちらかを選んで、自分の考えを書く。 ・二つの作品を読んで、江國香織の小説の特徴について感じたことを書く。 	<p>「読む能力」</p> <p>「読む能力」</p> <p>「関心・意欲・態度」</p>	<p>ワークシートの記述の分析</p> <p>ワークシートの記述の分析</p> <p>ワークシートの記述の分析</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・江國香織の小説の特徴について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の課題をプリントしたものを読み、江國香織の小説の特徴を特に表現・文体に着目して考える。 	<p>「知識・理解」</p>	<p>定期試験</p>

5 観点別評価の進め方

(1) 各時間の指導と評価の実際

〔第1時〕

本時の目標

・単元の目標を知り、最初の作品『草之丞の話』を読んで、登場人物の人物像を捉える。

本時の評価規準及び評価方法

・文章表現に即して人物像や人物の心情を読み味わっている。(ワークシートの記述の点検)
指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標の説明を聞き、学習の流れを確認する。 ・本文を範読に従って通読し読みの難しい漢字にはふりがなを振る。 ・段落分けをする。 ・登場人物の人物像を豊かに描く。 <ul style="list-style-type: none"> ・最も心惹かれる人物を選びその理由を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れについて板書し理解を図る。 ・文学作品の最初の読みは、作品の鑑賞という側面を持つので、教師が範読する。 ・時間の流れに着目させる。 ・文章表現に即した丁寧な読みを心がけるよう注意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者がそれぞれの視点で作品の魅力を解き明かしていくよう留意する。 	<p>(定期試験)</p> <p>(記述の点検)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述を点検し、文章表現に即して人物像が描けていたら評価する。

評価例

A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の〔キーワード〕と具体的な姿の例

〔より深いテーマに迫る人物像〕

・「中学一年生」「十三歳」という年齢、母親のことを「おふくろ」と言ったり、学校をさぼって映画を見たり、母親とワルツを踊ることに抵抗を感じたりという点などを押さえて、「ぼく」を子ども時代を抜け出して、精神的な自立に向かい始めた人物として捉えている。

・「世間知らずで泣き虫」、「夜中に一人でトイレにも行かれない」、「天真爛漫」と「まるで女学生のようにほおを染めて」、「子どものようにすなおな声で」という比喩表現、「子守歌を歌って」もらったという点などを押さえて、「おふくろ」が、子どもを守り育てる庇護者としてではなく、むしろ誰かによって守られるべき存在として造形されていることを読み取っている。

C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例

人物像が描けない生徒については、それぞれの人物についてキーワードを示して、書きやすい人物から書いていくように助言する。

〔第2時〕

本時の目標

・「ぼく」が幽霊である「草之丞」を「父」として受け入れていく過程を理解する。

本時の評価規準及び評価方法

・文章表現に即して登場人物の心情を読み取っている。(ワークシートの記述の点検)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」の「草之丞」に対する気持ちの変化を、七月十月、十二月の場面ごとにまとめる。 ・この家族のあり方について「草之丞」が現れる前と現れてからとについてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を働かせてそれぞれの場面を、その場に居合わせたかのように思い描くように助言する。 ・陰で見守っていた「草之丞」が現れたことによって、この家族の姿がどう変化したのかを理解させる。 	<p>(行動の観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの記入の進み具合を机間指導でチェックする。 <p>(記述の点検)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述を点検し、「ぼく」が「草之丞」を受け入れていく過程を理解していたら評価する。

評価例

A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の〔キーワード〕と具体的な姿の例

〔作者特有の表現のおもしろさに対する関心〕

想像力を働かせて「ぼく」が「草之丞」を受け入れていく過程を理解することを通して、「ぼくは胸がしわっとした」などのこの作者特有の表現のおもしろさにも関心を持っている。

C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例

「ぼく」の気持ちの変化を捉えられない生徒については、それぞれの場面で「ぼく」の気持ちを理解する手がかりになる表現を提示して考えさせる。

〔第3時〕

本時の目標

- ・「草之丞」の出現が「ぼく」に何をもちたかを考える。

本時の評価規準及び評価方法

- ・他者のものの見方、感じ方に触れて、自らの読みを深めている。(ワークシートの記述の点検) 指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートを基にグループごとに話し合い、感想をワークシートに記入する。 ・「草之丞」が現れ、消えることによって、「ぼく」の心にどのような変化があったかをグループごとに話し合い、その結果を用紙に書いて提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のメンバーの発表はメモを取りながら聞くように指示する。 ・メンバーそれぞれの意見をできるだけ取り入れてまとめるように指示する。 ・グループのまとめをそれぞれのワークシートにも記入させる。 	<p>(記述の点検)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーそれぞれの意見をできるだけ取り入れてまとめてあれば評価する。

評価例

本時については提出された用紙を基に、グループごとに評価し、個人については〔第8時〕のワークシートの記述を分析して評価する。

〔第4時〕

本時の目標

- ・二つ目の作品『デューク』を読んで、登場人物の人物像を捉える。

本時の評価規準及び評価方法

- ・文章表現に即して人物像や人物の心情を読み味わっている。(ワークシートの記述の点検) 指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> ・『草之丞の話』で作り上げたそれぞれの<読み>を基に、二つ目の作品『デューク』を読む。 ・本文を範読に従って通読し読みの難しい漢字にはふりがなを振る。 ・段落分けをする。 ・登場人物の人物像を豊かに描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『草之丞の話』で作り上げたそれぞれの<読み>を基に、この作品を読んでいくことを確認する。 ・文学作品の最初の読みは、作品の鑑賞という側面を持つので、教師が範読する。 ・主要な事件を基に、大きく三つの場面に分ける。 ・文章表現に即した丁寧な読みを心がけるよう注意する。 	<p>(定期試験)</p> <p>(記述の点検)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述を点検し、文章表現に即して人物像が描けていたら評価する。

評価例

A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の[キーワード]と具体的な姿の例

[より深いテーマに迫る人物像]

- ・「二十一歳」・「女」・「アルバイト」という三点を押さえて、「私」をまだ自分の人生設計を明確に定めていない若い女性、年齢的には大人といえるが、経済的にも精神的にもまだ自立していない人物だと捉えている。

- ・「私」の目を通して語られているデュークが全く犬らしくない点、あたかも「私」の恋人か何かのように描かれていることを読み取っている。

C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例

人物像が描けない生徒については、それぞれの人物についてキーワードを示して、書きやすい人物から書いていくように助言する。

〔第5時〕

本時の目標

- ・「私」とデュークの関係について考える。

本時の評価規準及び評価方法

- ・文章表現に即して登場人物の心情を読み取っている。(ワークシートの記述の点検)
指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> ・「私」にとってデュークはどのような存在であったのかを考える。 ・少年がデュークの化身であることが伝わる表現の工夫を、正確に読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「私のデューク」という表現、「私」の目を通して語られるデュークが全く犬らしくない点に注目させる。 ・少年がデュークの化身であることにどの段階で気づいたか、その時どう感じたかもメモさせる。 	(行動の観察) <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの記入の進み具合を机間指導でチェックする。 (記述の点検) <ul style="list-style-type: none"> ・他の家族にとっては愛犬にすぎないデュークに対して、「私」だけが特別な思いを抱いていることを理解していれば評価する。

評価例

A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の [キーワード] と具体的な姿の例

[不思議な物語の世界を楽しむ]

想像力を働かせて、全く犬らしくないデュークの姿を受け入れ、在りし日のデュークと「私」の常識を超えた不思議な関係を読み取っている。

C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例

「私」とデュークとの結びつきの深さが読み取れない生徒については、在りし日のデュークの姿を回想した場面から、「私」にとってデュークが「犬」を超えた存在であることを示す表現をいくつか指摘して考えさせる。

〔第6時〕

本時の目標

- ・「私」の悲しみが癒されていく過程をたどる。

本時の評価規準及び評価方法

- ・文章表現に即して人物像や人物の心情を読み味わっている。(ワークシートの記述の点検)
指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの出来事がどのように「私」の気持ちに作用しているかを文章表現に即して、丁寧に読み取る。 ・少年＝デュークだとわかって読むと、少年の三つの言葉はどのように解釈できるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アイスクリームのあまさは、舌にうれしかった」「晴れたま昼の、冬のおいがした」など普通とは異なる表現に注目させる。 ・少年の三つの言葉が二通りに解釈できることを読み取らせる。 	(行動の観察) <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの記入の進み具合を机間指導でチェックする。 (記述の点検) <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述を点検し、「私」の悲しみが癒されていく過程を読み取っていれば評価する。

評価例

A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の [キーワード] と具体的な姿の例

[文章表現に即した丁寧な読み]

「アイスクリームのあまさは、舌にうれしかった」「晴れたま昼の、冬のおいがした」などの独特の表現から、悲しみに閉ざされていた「私」が快復しつつあることを読み取っている。

C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例

「私」の気持ちの変化を捉えられない生徒については、プールの場面での「私」の様子を丁寧に読み取るよう助言する。

〔第7時〕

本時の目標

- ・少年（デューク）との出会いと別れが、「私」に何をもたらしたかを考える。

本時の評価規準及び評価方法

- ・他者のものの見方、感じ方に触れて、自らの読みを深めている。（ワークシートの記述の点検）
- 指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを基にグループごとに話し合い、感想をワークシートに記入する。 ・少年（デューク）が現れ、去ったことによって、「私」の心にどのような変化があったかを、グループごとに話し合い、その結果を用紙に書いて提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のメンバーの発表はメモを取りながら聞くように指示する。 ・メンバーそれぞれの意見をできるだけ取り入れてまとめるように指示する。 ・グループのまとめをそれぞれのワークシートにも記入させる。 	<p>（記述の点検）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーそれぞれの意見をできるだけ取り入れてまとめてあれば評価する。

評価例

本時については提出された用紙を基に、グループごとに評価し、個人については〔第8時〕のワークシートの記述を分析して評価する。

〔第8時〕

本時の目標

- ・二つの作品の最大の謎を読み解く。

本時の評価規準及び評価方法

- ・他者のものの見方、感じ方に触れて、自らの読みを深めている。（ワークシートの記述の分析）
 - ・二つの作品を読み比べることによって自らの読みを深めている。（ワークシートの記述の分析）
 - ・物語の世界を楽しもうとしている。（ワークシートの記述の分析）
- 指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> ・第3時、第7時の各グループのまとめをプリントしたものを読む。 ・『草之丞』はなぜ『ぼく』の前に姿を現し、去っていったのか」と「なぜデュークは少年に姿を変えて、再び『私』のもとに戻り、再び去っていったのか」という謎のどちらかを選んで、自分の考えを書く。 ・二つの作品を読んで、江國香織の小説の特徴について感じたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の<読み>を手がかりに、それまで気づかなかった作品の側面を知ることによって、自らの<読み>を深めていくことを目指す。 ・「ぼく」から「草之丞」へ、「私」から「デューク」へと視点を変えることによって作品を立体的に捉えさせる。 ・特に気に入った、心に残った表現も抜き出させる。 	<p>（行動の観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く作業の進み具合を机間指導でチェックする。 <p>（記述の分析）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述を分析し、他者の<読み>と交流することで、自己の<読み>を深めたり、さまざまな視点から物語を捉え立体的な読みをしているか、想像力を働かせて「草之丞」や「デューク」の心情を生き生きと捉えようとしているかを評価する。

評価例

A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の〔キーワード〕と具体的な姿の例

〔立体的な読み〕

- ・「草之丞」の目を通して、「風太郎（ぼく）」と「れいこさん（おふくろ）」を捉え直して、「草之丞」はどんな思いで二人を見守ってきたのか、なぜ自分の存在を知らない「風太郎」の前に姿を現したのか、「では、さらば」ときっぱりと言って去っていった時の気持ちはどうだったのか、などについて「草之丞」の心情が豊かに描かれている。
- ・デュークにとって「私」と暮らした日々はどのようなものだったのか、自分の死を悲しむあまりにも無防備な「私」の姿をどのような思いで見つめていたのか、少年に姿を変えて「私」と過ごしている時は何を考え感じていたのか、どんな思いで「私」にキスをして、どんな思いで去って行ったのかなど、「デューク」の目を通して在りし日の二人の姿、この日の二人を捉え直して、デュークの心情が豊かに描かれている。

C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例

最後の場面で「草之丞」が「ぼく」に言った「れいこさんは風太郎にまかせる」「自然なことです。もう、わたしは必要ない」という言葉、「デューク」が「私」に言った「僕もとても、愛していたよ」「それだけ言いに来たんだ。じゃあね。元気で」という言葉を手がかりに考えるよう助言する。

〔第9時〕

本時の目標

- ・江國香織の小説の特徴について考える。

本時の評価規準及び評価方法

- ・独特の擬声語・擬態語など江國の表現の特徴を理解している。(定期試験)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> ・前時の課題をプリントしたものを読み、江國香織の小説の特徴を特に表現・文体に着目して考える。 ・江國香織「物語の復権」を読んで、江國の「物語」に対する考え方への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の中で起こる不思議な出来事、日常の中に非日常が入り込んだ不思議な世界を支え、その作品世界に透明感を与えているのが、彼女の表現・文体であることに気づかせる。 	<p>(定期試験)</p>